

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-2-3 高齢者福祉の推進
---------	---------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	高齢者福祉課長 稲田勝	電話番号	0852-22-5236
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	軽費老人ホーム運営事業		
目的	(1) 対象	居宅での生活が困難な高齢者	
	(2) 意図	入所施設等を適切に提供する。	
事業概要	軽費老人ホームの入所者の処遇にかかる費用の一部を負担する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 軽費老人ホームの入所者に対する低所得者の割合（補助対象）	目標値		82.0	83.0	84.0	85.0	%
		取組目標値						
	式・定義 年間収入180万円以下の入所者数/入所者総数	実績値		81.3				
		達成率		-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率		-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	464,761	505,293
うち一般財源 (千円)	464,761	505,293

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成27年度 軽費老人ホーム（ケアハウス）計17施設 年内収入180万円以下の入所者7,954人/入所者総数9,782人（年間延べ）（81.3%）
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

軽費老人ホームの入所者総数のうち、年間収入180万円以下の入所者が占める割合は、H27年度は81.3%と、前年度（80.5%）を上回っており、低所得者に対する入所施設の提供という目的については、達成に向けて概ね順調に進んでいる。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
一部の施設では空室が目立つ
- ②困っている状況が発生している「原因」
住民に対する周知不足
- ③原因を解消するための「課題」
どのようにして周知を図っていくか

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

軽費老人ホームに対する低所得者の住まいとしてのニーズは依然として高いことから、市町村と連携して軽費老人ホームの周知を図っていく。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）